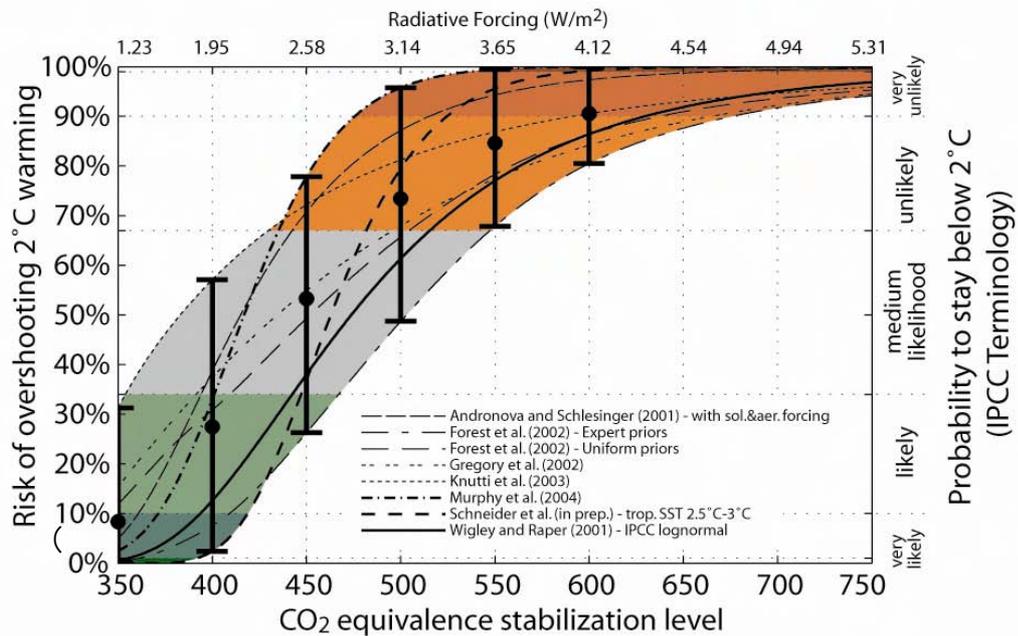


慮した解析なども進みつつあるが、さらに研究を進めていく必要がある(図 6.4 参照)。



出典)Meinshausen(2005)¹⁵⁾

図 6.4 不確実性を考慮した安定化濃度と気温上昇の関係についての試算例

- ・GHGs550ppm 安定化では 2°Cよりも高い気温上昇が引き起こされる確率は 68~99%と高い。
- ・2°Cを超過しない確率を IPCC でいうところの「likely (66~90%)」に持っていくためには GHGs400ppm 安定化が必要である(GHGs450ppm ではそこまで確率を高めることが出来ない)ことが示されている。
- ・Meinshausen は、工業化以降の気温上昇を2°C以下に抑えることが出来る確率を、濃度安定化目標別に示した。8つの気候感度の確率分布を用いることが特徴である。